

表1

学習教育到達目標と基準1(2)の(a)~(i)との対応 アニマルバイオサイエンスコース

教育目標		審査基準(1-2)								
		a	b	c	d	e	f	g	h	i
		地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解	数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを用いる能力	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	自主的、継続的に学習する能力	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	チームで仕事をするための能力
A 人類への貢献、幅広い視野と倫理観を持った技術者としての姿勢	A-1	社会の成立に不可欠な諸条件を学び、価値観の異なる他者との共存の在り方を考える能力を身に付ける	◎	○						
	A-2	社会性・協調性・思考力の向上を図り、チームワーク遂行能力を身に付ける	○							◎
	A-3	技術開発が社会に与える影響、特に、倫理面での問題について学び、地球的視点で技術の発展を考える力を身に付ける		◎						
	A-4	外国語の習得を通して、諸外国の文化・習慣・考え方を学び、海外で通用する素養を身に付ける	◎							
B 他者との意思疎通を円滑に行う能力	B-1	分かりやすいきちんとした日本語での表現、報告書の作成、プレゼンテーションが出来る能力を身に付ける						◎		
	B-2	英語による基本的な表現(英文読解、英作文)が出来る能力を身に付ける						◎		
C バイオサイエンス・バイオテクノロジーの基礎知識と能力	C-1	基礎的な生物学の諸分野を理解する			◎					
	C-2	生物学分野に関わる数学・化学・物理学・情報学の基礎を理解する			◎					
	C-3	基礎的な生物学・化学・物理学の実験技術と情報処理技術を身に付ける			◎					
	C-4	動物個体あるいはその集団から生成される生命現象を時空間的に解析できる			◎					
D バイオサイエンス・バイオテクノロジーの応用能力	D-1	動物生理学や発生工学、食品生産工学、環境生態学などの分野における技術開発に応用するための発展的知識と考え方を身に付ける				◎				
	D-2	動物生理学や発生工学、食品生産工学、環境生態学などの分野における技術開発に必要な数学・化学・物理学および情報処理の知識を身に付ける				◎				
	D-3	人間の感性や行動パターンに基づいた動物生理学や発生工学、食品生産工学、環境生態学などの分野における技術開発に必要な知識を身に付ける	○			◎				
	D-4	動物生理学や発生工学、食品生産工学、環境生態学などの分野における技術開発に必要な諸分野の発展的実験技術を身に付ける				◎				
	D-5	与えられた条件下で、問題を解決する過程を学び、デザイン能力を身に付ける					◎		◎	
E 創造性・チャレンジ性を発揮できる素養	E-1	アニマルバイオサイエンス領域の研究開発計画の立案、実験手順の設計、データ処理、考察の一連の手順を学び創造性を身に付ける				○	○		◎	
	E-2	アニマルバイオサイエンス領域の実験や研究上で発生した諸問題の解決を通して、事業開発に自主的に取り組む姿勢を身に付ける				○	○	◎	○	
	E-3	文献調査や研究会・学会への出席を通して、継続的に学ぶ姿勢を身に付ける						◎		
	E-4	自らの実験結果・研究結果を報告することにより、口頭発表・討議のためのコミュニケーション力を身に付ける						○		◎
F 現象の把握とモデル化の能力	F-1	様々な現象の中から普遍性をとらえ一般化する能力を身に付ける			○		○			○
	F-2	一般化した現象をモデル化し、技術開発・問題解決の基礎として用いる能力を身に付ける			○		◎			
	F-3	事故などの問題発生の原因を探り、モデル化し、問題発生の前兆検知や予防などに利用できる能力を身に付ける		◎			○			○